

授業概要					
学 科	第 1 鍼灸科	学 年	1 年	学 期	前 期
単 位 数	2	必要時間数	30	実施時間数	30
担当教員	毎床 玲音（大阪大学）				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	社会学の歴史は、近代社会の成立と共にある。本講義では、その近代の上に成り立つ現代において、社会学の諸概念や諸理論を概説的に取り上げ、複合的な社会に生きるわれわれの日常生活をみつめていく。それはまさに、自分の眼を自分の眼で見つめ直す行為である。つまり、本講義は、はり師・きゅう師を目指す受講生の省察を目的としている。				
教 科 書	武川 正吾, 佐藤 健二, 常松 淳, 武岡 暢, 米澤 旦 著 2025『社会学概論：何をどのように考えてきたのか』有斐閣アルマ. <u>（*購入する必要はありません）</u>				
参 考 書	井上 俊, 船津 衛 編 2005『自己と他者の社会学』有斐閣アルマ.				
	宇都宮 京子, 西澤 晃彦 編著 2020『よくわかる社会学〔第三版〕』ミネルヴァ書房.				
	大澤 真幸 2019『社会学史』講談社現代新書.				
	ケイン 樹里安, 上原 健太郎 編著 2019『ふれる社会学』北樹出版.				
	櫻井 義秀, 平藤 喜久子 編著 2015『よくわかる宗教学』ミネルヴァ書房.				
参 考 書	田中 正人 編著, 香月 孝史 著 2019『社会学用語図鑑』プレジデント社.				
	長谷川 公一, 浜 日出夫, 藤村 正之, 町村 敬志 2019『社会学（新版）』有斐閣.				
	早川 洋行 編著 2011『よくわかる社会学史』ミネルヴァ書房.				
参 考 書	間淵 領吾, 酒井 千絵, 古川 誠 編 2022『基礎社会学〔新訂第五版〕』世界思想社. ほか				

具体的な到達目標	
目標 1	社会学で取り扱われる諸概念や諸理論を理解することができる。
目標 2	社会学の諸要素を日常生活において認識し、それらを自らの仕事や研究等に活かすことができる。
目標 3	講義で学んだ社会学を、自分の実生活や身近な現象等の場面で分析・判断し、説明したり応用したりすることができる。

評価と試験						
前 期				後 期		
試験成績	70			－		
平常点	30	算出方法	対面授業時の感想文など	－	算出方法	－
出席点	－	算出方法	－	－	算出方法	－
その他	－	算出方法	－	－	算出方法	－
試験日	後日伝達					

※ 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☐ 無 ☒
教員の实務経験	特記事項なし
実務経験をいかした教育内容	特記事項なし

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1	【対面】4/10	オリエンテーション：「社会学」へようこそ	
2	〔動画〕4/17	個人と社会 自己と他者	
3	〔動画〕4/24	家族と親密圏 仕事と産業	
4	〔動画〕5/1	福祉と貧困 犯罪と逸脱	
5	【対面】5/8	病と医療 〔調整〕	
6	〔動画〕5/15	グローバル化と開発 社会階層と不平等	
7	〔動画〕5/22	都市・地域 権力と自由	
8	〔動画〕5/29	メディアと文化 宗教・政治・報道／ネット……「信仰」「三位一体」の時代	
9	〔動画〕6/5	方法としての社会学 社会学の歴史と理論の振り返り	
10	【対面】6/12	ジェンダー 〔調整〕	
11	〔動画〕6/19	子どもと若者 教育と多文化共生	
12	〔動画〕6/26	現代社会Ⅰ：哲学 〔調整〕	
13	〔動画〕7/3	現代社会Ⅱ：文学 〔調整〕	
14	【対面】7/10	「区別」という差別 〔調整〕	
15	【対面】7/24	期末試験の返却 雑談会と後期の予告	
その他の事項			

■受講に際しての諸注意と配慮事項

講義実施日時と講義内容は、シラバスに記載の予定から変更される場合がある。また、本講義では、社会学という学問の性質上、内容によっては、受講生にとってストレスとなり得るような、センシティブなテーマや事象等が取り上げられることが予想される（受講生は無理をしないように、自分を優先してください）。

また、視覚（色覚を含む）や聴覚等においてなんらかの配慮が必要な場合は、講義担当者ないし学校関係者に事前に申し出れば、その申請に応じて講義を構成・展開する。

■成績評価にかんして

期末の筆記試験は、ノート持ち込み可の論述問題を出題する予定である。

出席の扱いにかんしては、学則ならびに細則の規定に拠る。

■講義担当者にかんして

●researchmap

https://researchmap.jp/Camus_Grenier/

●連絡先

メールアドレス（＊メールアドレスの★は@に置き換えてください）

u476463b★ecs.osaka-u.ac.jp

＊オフィスアワーは対面授業時の休み時間もしくは昼休み（@職員室）

基礎分野

(生物学) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2025 年度シラバス

授業概要			
学 科	第 1 鍼灸科	学 年	1 年
単 位 数	2	必要時間数	30
担当教員	益田 敦子		
授業形態	講義（動画＋対面）	教 室	ホームルーム
授業目的	生物学とは、生物がどのようなしくみで生命活動を営んでいるかを探求する学問であるが、本講義では、主に生物の体がどのような物質でできているか、また生物の基本単位である細胞の各細胞小器官の構造と働き、増殖の方法を学ぶ。さらに原核生物、真核生物、ウイルスの違いについて学ぶことにより生物の基礎知識を身につける。これらの基礎知識は医療系学生が主に生理学、解剖学を学ぶ際の理解の助けとなることが期待される。		
教 科 書	教科書は指定しない		

具体的な到達目標	
目標 1	生物の特徴について説明できる。
目標 2	生体を構成する物質（水、タンパク質、糖質、脂質）それぞれの構造や性質について説明できる。
目標 3	生体を構成する物質（水、タンパク質、糖質、脂質）、それぞれの生体内における働きを説明できる。
目標 4	細胞膜の構造について説明できる。
目標 5	細胞膜における物質輸送について説明できる。
目標 6	細胞小器官について、それぞれの形態の特徴と機能を説明できる。
目標 7	原核生物と真核生物の違いを説明できる。
目標 8	細菌の構造について説明できる。
目標 9	ウイルスの構造と特徴について説明できる。
目標 10	細胞の増殖の仕方（体細胞分裂、減数分裂）について説明できる。

評価と試験				
前 期			後 期	
試験成績	85%			
平常点	15%	算出方法	授業態度により判定	算出方法
出席点		算出方法		算出方法
その他		算出方法		算出方法
試験日	後日伝達			

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有	☐	無 ☐
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス、生物の特徴、トピック	
2		生体を構成する物質全体について、水の性質と生体内における働き、タンパク質の構造	
3		タンパク質の構造と性質 タンパク質の種類と生体内における働き	
4		糖質（単糖類、二糖類、多糖類）の構造と性質、糖質の生体内における働き、	
5		脂質（単純脂質、複合脂質）の構造と性質、脂質（誘導脂質）の構造と性質	
6		脂質（誘導脂質）の構造と性質、脂質の生体内における働き、無機質の生体内における働き	
7		細胞の発見と細胞説、細胞の大きさと形	
8		細胞膜の構造と性質、細胞膜における物質輸送の方法	
9		核、リボソーム、粗面小胞体、滑面小胞体、ゴルジ装置の構造と働き、細胞内における物質の流れ	
10		リソソーム、ミトコンドリア、中心体、液胞、葉緑体、細胞壁の構造と働き	
11		細胞骨格の構造と働き、生物のタイプ：原核生物と真核生物、細菌の構造、ラン藻の構造	
12		細胞の進化、ウイルスの構造、特徴、分類とさまざまなウイルスについて	
13		細胞周期、体細胞分裂、染色体、減数分裂、生殖細胞の形成	
14		復習	
15		試験解説、トピック	
その他の事項			
・生物学は専門科目ではないが、生理学、解剖学の理解の助けになるので、しっかり勉強して下さい。 ・パワーポイントを印刷したものを、配信前または配信後ほどなく配布するので、学習、復習に利用して下さい。 ・対面授業では、復習や質問に対する対応も行なう。			
推薦図書	絵でわかる細胞の世界	黒谷明美著	講談社サイエンティフィク 2001 年発行
	医学を学ぶための生物学	谷口直之、米田悦啓編集	南江堂 2004 年改訂第 2 版発行

授業概要					
学 科	第 1 鍼灸科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	6 0	実施時間数	6 0
担当教員	棟居 清峰				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	本授業においては医学の基礎となる解剖学のうち、「骨・筋・関節」といった運動器について重点的に学び、国家試験に対応できる学力はもちろんのこと、他科目及び臨床・実技授業においても土台となる運動器の知識を修得する。				
教 科 書	東洋療法学校協会編 解剖生理 医歯薬出版株式会社				

具体的な到達目標	
目標 1	骨の構造と特徴について説明することができる。
目標 2	筋の構造、起始・停止・作用・支配神経について説明することができる。
目標 3	関節の構造と働きについて説明がすることができる。
目標 4	
目標 5	
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	80%		80%		
平常点	20%	算出方法 課題等	20%	算出方法 課題等	
出席点		算出方法		算出方法	
その他		算出方法		算出方法	
試験日	後日伝達		後日伝達		

＊ 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有	☒	無 ☐
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		シラバスの説明、組織と器官（支持組織・結合組織） 第2章 A. 運動器系とは（運動の仕組み、解剖学的用語について）	第1～2章
2		A. 運動器系とは（骨の構造と機能、関節の構造と機能）	第2章
3		A. 運動器系とは（5. 骨格筋の構造と機能（筋線維と筋原線維は除く）	
4		A. 運動器系とは（7. 骨格筋の分類と補助装置（1）赤筋と白筋は除く） B. 全身の骨格（関節可動域）	
5		B. 全身の骨格（脊柱、胸郭）1	
6		B. 全身の骨格（脊柱、胸郭）2	
7		B. 全身の骨格（上肢の骨格）1	
8		B. 全身の骨格（上肢の骨格）2	
9		B. 全身の骨格（下肢の骨格）1	
10		B. 全身の骨格（下肢の骨格）2	
11		B. 全身の骨格（頭蓋骨）1	
12		B. 全身の骨格（頭蓋骨）2	
13		B. 全身の骨格 復習	
14		C. 全身の骨格筋（体幹部の筋）1	
15		C. 全身の骨格筋（体幹部の筋）2	
16		C. 全身の骨格筋（体幹部の筋）3	
17		C. 全身の骨格筋（上肢の筋）1	
18		C. 全身の骨格筋（上肢の筋）2	
19		C. 全身の骨格筋（上肢の筋）3	
20		C. 全身の骨格筋（下肢の筋）1	
21		C. 全身の骨格筋（下肢の筋）2	
22		C. 全身の骨格筋（下肢の筋）3	
23		C. 全身の骨格筋 復習	
24		B. 体表解剖と主要な部位（体幹の体表解剖）	第12章
25		B. 体表解剖と主要な部位（上肢の局所解剖）	
26		B. 体表解剖と主要な部位（下肢の局所解剖）1	
27		B. 体表解剖と主要な部位（下肢の局所解剖）2	
28		B. 体表解剖と主要な部位（頭頸部の体表解剖と局所解剖）	
29		第12章のまとめ、復習、問題演習等	
30		総復習	
その他の事項			

【課題について】

課題を実施し、その得点を平常点 20%換算します。

【連絡先】

munesue@butsugen.or.jp

授業概要					
学 科	第 1 鍼灸科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	60	実施時間数	60
担当教員	奥村 清和				
授業形態	講義（動画＋対面）	教 室	ホームルーム		
授業目的	所定の教科書を利用して、その章の基準に従って授業を進めていきます。生徒のみなさんに教科書を読んでもらって、それに対して、説明・解釈を加えていきます。また、必要に応じて、自作のスライドを見てもらいながらの説明もあります。				
	基礎医学である生理学を学習し習得することにより、他の科目や臨床への応用が期待できる。				
教 科 書	解剖生理 医歯薬出版				

具体的な到達目標	
目標 1	人体各部の機能を習得する。
目標 2	習得した系統をつなぎ合わせて、理解を深める。
目標 3	他の科目や臨床に応用できるようにする。
目標 4	
目標 5	

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	100%		100%		
平常点	なし	算出方法	なし	算出方法	
出席点	なし	算出方法	なし	算出方法	
その他		算出方法		算出方法	
試験日	後日伝達		後日伝達		

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☐	無 ☐	
教員の実務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		細胞の概要、遺伝子とゲノム	
2		細胞分裂、遺伝子発現	
3		体液と恒常性、体液の性質	
4		物質の移動	
5		第6章 血液と免疫（血液）、血液とその成分	
6		白血球、血小板と止血機構	
7		血液凝固、血液型	
8		第5章 循環系、心臓	
9		心臓の活動と検査	
10		血圧と脈拍	
11		血圧と脈拍、リンパ系	
12		第7章 呼吸器系、呼吸と換気、呼吸とその調節	
13		呼吸機能の測定	
14		酸素・二酸化炭素の運搬	
15		呼吸の調節	
16		第8章 消化器系と代謝・栄養（消化器系）、嚥下、胃液と胃運動	
17		小腸の運動、小腸における消化と吸収	
18		大腸の運動と分泌、排便、膵臓の外分泌機能	
19		肝臓の機能、食欲	
20		第10章 内分泌系と体温（体温）、概要	
21		体熱の産生と放散①	
22		体熱の産生と放散②	
23		温度受容器と体温調節中枢、体温調節機能	
24		第9章 泌尿器系、腎臓の機能	
25		尿の生成、糸球体におけるろ過	
26		尿細管における再吸収と分泌	
27		腎機能の測定	
28		尿の組成、体液pHの調整	
29		蓄尿、排尿反射	
30		予備	
その他の事項			

授業概要					
学 科	第 1 鍼灸科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	6 0	実施時間数	6 0
担当教員	高橋 佑輔				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	本授業においては、医学の基礎となる解剖学のうち、「循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿器系」を重点的に学ぶ。本授業では、国家試験に対応できる力を育成することのみならず、他科目と確実に連携できることを目的として実施し、頭の中で人体の各臓器の構造が3次元で構成できることを最終的な目標とする。				
教 科 書	東洋療法学校協会 解剖生理 第1版				

具体的な到達目標	
目標 1	細胞、組織の構造について理解し説明することができる。
目標 2	心臓の構造を理解し説明することができる。
目標 3	全身の血管系の流れを理解し説明することができる。
目標 4	血管の構造を理解し説明することができる。
目標 5	リンパ系の役割・各種リンパ系器官の構造を理解し説明することができる。
目標 6	呼吸器の流れ、各呼吸器系器官の構造を理解し説明することができる。
目標 7	各消化器官の構造や流れについて理解し説明することができる。
目標 8	各泌尿器官の構造や流れについて理解し説明することができる。

評価と試験				
前 期			後 期	
試験成績	100%		100%	
平常点	—	算出方法 —	算出方法	—
出席点	—	算出方法 —	算出方法	—
その他	—	算出方法 —	算出方法	—
試験日	—			

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有	☒	無 ☐
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		第1章 人体の構成：細胞、組織と器官について学ぶⅠ。ガイダンス。	
2		第1章 人体の構成：細胞、組織と器官について学ぶⅡ。 第5章循環系：循環の概要と血管の構造について学ぶ。	
3		第5章循環系：血管の構造と吻合、門脈の概要について学ぶ。	
4		第5章循環系：心臓の構造(位置・心膜・壁)について学ぶⅠ。	
5		第5章循環系：心臓の構造(房室・弁・刺激伝導系)について学ぶⅡ。	
6		第5章循環系：心臓の構造(心臓血管)について学ぶⅢ。	
7		第5章循環系：動脈循環と大動脈の流れと分枝（大動脈・胸大動脈）について学ぶⅠ。	
8		第5章循環系：動脈循環と大動脈の流れと分枝（腹大動脈）について学ぶⅡ。	
9		第5章循環系：動脈循環と大動脈の流れと分枝（総腸骨動脈）について学ぶⅢ。	
10		第5章循環系：動脈循環と大動脈の流れと分枝（上肢・頸部・顔面部）について学ぶⅣ。	
11		第5章循環系：静脈と胎児循環について学ぶ。	
12		第5章循環系：リンパ系(総論)について学ぶ。	
13		第5章循環系：リンパ系(リンパ節・脾臓)について学ぶ。	
14		第5章循環系：リンパ系(胸腺・扁桃)について学ぶ。	
15		第5章の総復習。	
16		第7章呼吸器系：鼻腔・副鼻腔・咽頭・喉頭について学ぶ。	
17		第7章呼吸器系：気管系・肺について学ぶ。	
18		第8章消化器系と代謝・栄養：消化管の壁構成について学ぶ。	
19		第8章消化器系と代謝・栄養：口蓋・軟口蓋・舌について学ぶ。	
20		第8章消化器系と代謝・栄養：歯・唾液腺・咽頭について学ぶ。	
21		第8章消化器系と代謝・栄養：食道・胃について学ぶ。	
22		第8章消化器系と代謝・栄養：小腸について学ぶ。	
23		第8章消化器系と代謝・栄養：大腸について学ぶ。	
24		第8章消化器系と代謝・栄養：肝臓・胆嚢について学ぶ。	
25		第8章消化器系と代謝・栄養：膵臓の・腹膜について学ぶ。	
26		第8章消化器系と代謝・栄養：消化器の位置・構造等を総括的に学ぶ。	
27		第9章泌尿器系：腎臓について学ぶⅠ。	
28		第9章泌尿器系：腎臓について学ぶⅡ。尿路(尿管)について学ぶⅠ。	
29		第9章泌尿器系：尿路(膀胱・尿道)について学ぶⅡ。	
30		第7章・8章・9章の総復習。	

その他の事項

解剖学は形態・構造の理解を目指す学問です。人体の構造に対する知識は、すべての医学分野の学習において欠く事のできないものと考えます。何度も反復学習することが重要になります。何か不明な点がございましたら、分からないままにせず、気軽に質問していただけたらと思います。

担当教員メールアドレス : takahashi@butsugen.or.jp

授業概要					
学 科	第 1 鍼灸科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	6 0	実施時間数	6 0
担当教員	佐藤陽子				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	「生理学」は人体の構造や機序を知る上で、医学の基礎的分野を担います。 人体の構造や機能、機序をきちんと理解しなければ、生体機能の異常である「疾患」を理解できません。人に触れ、直接的に施術を行うあん摩マッサージ指圧師にとって、人体の構造と機能を正しく理解することは、施術の安全性や病態鑑別の点からも重要なことです。また、「生理学」で学ぶ知識は、その後に学ぶことになる様々な科目の理解に繋がるものであり、医療分野の教育の基盤となります。本授業では、人体の生命維持に必要な基本的な仕組みである、代謝・内分泌・生殖・神経の機能について学習することで、臨床の現場において遭遇する疾患の機序を考察でき、他の科目や臨床への応用ができるものと考えます。				
教 科 書	東洋療法学校協会編、解剖生理第1版、医歯薬出版株式会社				

具体的な到達目標	
目標 1	ATP を合成する過程について説明することができる。
目標 2	三大栄養素・ビタミン・ミネラルの役割について説明することができる。
目標 3	ホルモンとその主な作用について説明することができる。
目標 4	ホルモンの分泌器官・標的組織・分泌調整の流れを説明することができる。
目標 5	生殖に関わるホルモンについて説明することができる。
目標 6	生体のリズムと加齢変化について説明することができる。
目標 7	活動電位の発生メカニズム、静止電位の成因を説明できる。
目標 8	神経の興奮伝導、シナプス伝達の生理学的特性について説明することができる。
目標 9	中枢神経系の機能を部位ごとに説明することができる。
目標 10	末梢神経系(脳神経・自律神経)の各機能を説明することができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	1 0 0 %	1 0 0 %	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日	後日伝達	後日伝達	

＊再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有	☒	無 ☐
教員の实務経験			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス、第8章B. 代謝と栄養 1. 代謝とは	P. 226
2		第8章B. 代謝と栄養 2. 糖質	P. 226. 227
3		第8章B. 代謝と栄養 3. 脂質 , タンパク質	P. 228. 229
4		第8章B. 代謝と栄養 5. ビタミン , ミネラル	P. 230. 231
5		第8章B. 代謝と栄養「まとめ」	
6		第10章A. 内分泌系の総論	P. 244～247
7		第10章B. 内分泌系の各論 1. 視床下部と下垂体	P. 247～249
8		第10章B. 内分泌系の各論 2. 甲状腺と副甲状腺 , ランゲルハンス島 膵島	P. 250～253
9		第10章B. 内分泌系の各論 4. 副腎皮質	P. 253～255
10		第10章B. 内分泌系の各論 4. 副腎髄質 , その他のホルモン	P. 255. 256
11		第10章B. 内分泌系の各論 6. ホルモンによる体液の調整 ,	P. 256
12		第10章「まとめ」	
13		第11章A. 生殖とは	P. 262～269
14		第11章B. 妊娠と発生	P. 269～273
15		第11章C. 生体のリズムと加齢変化	P. 273～276
16		第11章 「まとめ」	
17		第3章A. 神経系と神経組織 1. 神経系の分類 , 神経組織	P. 82～84
18		第3章A. 神経系と神経組織 3. 神経細胞の興奮と伝導 , シナプス伝達	P. 84～87
19		第3章B. 中枢神経系 1. 中枢神経系の構造 , 中枢神経系の統合機能	P. 87～89
20		第3章B. 中枢神経系 3. 大脳 (大脳の構造 , (新皮質	P. 89～91
21		第3章B. 中枢神経系 3. 大脳 (新皮質 , (大脳辺縁系 , (大脳基底核	P. 91. 92
22		第3章B. 中枢神経系 4. 間脳 , 5. 脳幹	P. 93. 94
23		第3章B. 中枢神経系 6. 小脳	P. 95
24		第3章B. 中枢神経系 7. 脳波と睡眠	P. 96
25		第3章A,B 「まとめ」	
26		第3章C. 伝導路と運動調節 4. 運動反射	P. 104～106
27		第3章D. 末梢神経系 1. 脳神経	P. 106～112
28		第3章D. 末梢神経系 1. 脳神経	P. 106～112
29		第3章D. 末梢神経系 3. 自律神経系	P. 121～124
30		第3章D. 末梢神経系 3. 自律神経系, 第3章C.D 「まとめ」	P. 121～124
その他の事項			

授業概要					
学 科	第 1 鍼灸科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	4	必要時間数	8 0	実施時間数	8 0
担当教員	下宮 啓佑				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	経絡経穴概論は、はき学を学ぶ上で重要な柱の 1 つである。経穴は、身体各部の状態が体表上に反映される部位であり、同時に、刺激をすることで身体各部に影響を与えることができる、診断・施術において重要なポイントである。本講義では経絡の種類、作用、流れ、経穴の名称、部位、意義を学び、臨床において経穴を応用できる基礎知識を身につける。				
教 科 書	「新版 経絡経穴概論 第 2 版」(医道の日本社)				

具体的な到達目標	
目標 1	督脈・任脈の流注、部位を覚える。
目標 2	手の太陰肺経～足の厥陰肝経までの経絡の流注、部位を覚える。
目標 3	取穴する上で必要な骨度法を覚える。
目標 4	五行穴、五要穴を覚える。
目標 5	奇経八脈・奇穴を覚える。
目標 6	経絡経穴の現代的研究を覚える。
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	80%		80%		
平常点	20%	算出方法 小テスト①～⑧	20%	算出方法 小テスト⑨～⑮	
出席点		算出方法		算出方法	
その他		算出方法		算出方法	
試験日					

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有	☒	無 ☐
教員の実務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		シラバスの説明、経絡経穴の概要①	
2		経絡経穴の概要②、骨度法	
3		督脈の流注・経穴名・部位について①	
4		督脈の流注・経穴名・部位について②	
5		任脈の流注・経穴名・部位について①	小テスト①
6		任脈の流注・経穴名・部位について②	
7		手の太陰肺経の流注・経穴名・部位について	小テスト②
8		手の陽明大腸経の流注・経穴名・部位について①	小テスト③
9		手の陽明大腸経の流注・経穴名・部位について②	
10		足の陽明胃経の流注・経穴名・部位について①	小テスト④
11		足の陽明胃経の流注・経穴名・部位について②	
12		足の陽明胃経の流注・経穴名・部位について③	
13		足の太陰脾経の流注・経穴名・部位について①	小テスト⑤
14		足の太陰脾経の流注・経穴名・部位について②	
15		手の少陰心経の流注・経穴名・部位について	小テスト⑥
16		手の太陽小腸経の流注・経穴名・部位について①	小テスト⑦
17		手の太陽小腸経の流注・経穴名・部位について②	
18		督脈～手の太陽小腸経の復習	小テスト⑧
19		足の太陽膀胱経の流注・経穴名・部位について①	
		前期試験	
20		足の太陽膀胱経の流注・経穴名・部位について②	
21		足の太陽膀胱経の流注・経穴名・部位について③	
22		足の少陰腎経の流注・経穴名・部位について①	小テスト⑨
23		足の少陰腎経の流注・経穴名・部位について②	
24		手の厥陰心包経の流注・経穴名・部位について	小テスト⑩
25		手の少陽三焦経の流注・経穴名・部位について①	小テスト⑪
26		手の少陽三焦経の流注・経穴名・部位について②	
27		足の少陽胆経の流注・経穴名・部位について①	小テスト⑫
28		足の少陽胆経の流注・経穴名・部位について②	
29		足の少陽胆経の流注・経穴名・部位について③	
30		足の厥陰肝経の流注・経穴名・部位について	小テスト⑬
31		足の太陽膀胱経～足の厥陰肝経の復習	小テスト⑭
32		五行穴・五要穴について	
33		その他の要穴について	小テスト⑮

34		胸腹部、腰背部の横並びについて
35		奇経八脈について、奇穴について①
36		奇穴について②
37		四肢の筋と経穴の関係
38		体幹の筋と経穴の関係
39		総復習
		後期試験
40		経絡経穴の現代的研究について、参考資料について

その他の事項

小テストは適宜、授業内で実施する。

担当教員(メールアドレス)

shimomiya@butsugen.or.jp

授業概要					
学 科	第 1 鍼灸科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	4	必要時間数	8 0	実施時間数	8 0
担当教員	上田 恵介				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	東洋医学の基礎理論について学習する。東洋医学的な生理、病理、診察、治療論について学習し、臨床に向け応用できる東洋医学的な人体の診方を涵養する。				
教 科 書	教科書検討小委員会著、新版 東洋医学概論				

具体的な到達目標	
目標 1	東洋医学の基礎理論について説明ができる。
目標 2	陰陽学説、五行学説、五行の性質を説明できる。色体表を書くことができる。
目標 3	生体物質について理解し説明できる。
目標 4	臓腑の特性、生理、病理について説明できる。
目標 5	奇経八脈の作用、役割、病態について説明できる。
目標 6	四診を用いて判断する。舌診、脈診の意味を理解し説明できる。
目標 7	問診と病態を関連させることができる。
目標 8	気血津液について原因、症状を説明できる。
目標 9	十二経絡病証、是動病、所生病から経脈の異常を判断できる。
目標 10	臓腑病証の区分を理解し説明できる。

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	80 点		80 点		
平常点	0 点	算出方法	0 点	算出方法	
出席点	0 点	算出方法	0 点	算出方法	
その他	20 点	算出方法	小テスト	20 点	算出方法 小テスト
試験日	後日伝達		後日伝達		

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☐ 無 ☐
教員の実務経験	
実務経験をいかした教育内容	

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		シラバスの説明、授業ガイダンス	

2	東洋医学の仕組み、沿革	
3	陰陽学説	
4	五行学説	
5	五行の性質、色体表（自然界）	
6	五行の性質、色体表（人体）	
7	気血津液の生理①	
8	気血津液の生理②	
9	蔵象①（肝・胆・心・心包・小腸・脾・胃）	
10	蔵象②（肝・胆・心・心包・小腸・脾・胃）	小テスト1
11	蔵象③（肺・大腸・腎・膀胱・三焦・奇恒の腑）	
12	蔵象④（肺・大腸・腎・膀胱・三焦・奇恒の腑）	
13	病因病機①	
14	病因病機②	
15	病因病機③	
16	弁証方法の種類① 八綱弁証	小テスト2
17	弁証方法の種類② 表裏弁証	
18	気血津液の病理①	
19	気血津液の病理②	
	前期期末試験	
20	試験解説・前期まとめ	
21	総合演習（前期）	
22	臓腑病証（肝・胆）	
23	臓腑病証（肝・胆）	
24	臓腑病証（心・小腸）	
25	臓腑病証（脾・胃）	
26	臓腑病証（肺・大腸）	
27	臓腑病証（腎・膀胱）	
28	臓腑病証（腎・膀胱）	小テスト3
29	奇経八脈の作用・病証	
30	十二経絡病証①、（是動病、所生病）	
31	十二経絡病証②	
32	経脈・絡脈・皮部・経筋	
33	望診：舌診、五行を用いた診断法、臨床上の扱い、舌診（形態、病態）	
34	聞診	
35	問診：臨床に即した問診方法（十問診①）	小テスト4

36	問診：臨床に即した問診方法（十問診②）
37	問診：臨床に即した問診方法（十問診③）
38	切診：脈状診、六部定位脈診、三部九候診、人迎脈口診
39	切診：『難経』の腹診、『傷寒論』の腹診、募穴診、夢分流腹診
	後期期末試験
40	試験解説・後期まとめ

その他の事項

授業の概要 毎時間教科書及び配布資料を用いた講義

受講するうえでの決まり事

配布資料：教科書と同様、毎時間持参してください。紛失した場合の追加での印刷は行いません。

单元ごとに googleform 用いた復習問題を実施するため、QR コードを読み取ることができる端末を各自用意してください。

その他：著しく授業を妨害する行為、または教員の指示に従わないと判断した際、退室を命じる場合があります。

成績評価 前期：試験点数 80 点満点 小テスト 20 点（10 点の小テストを 2 回実施予定）

後期：試験点数 80 点満点 小テスト 20 点（10 点の小テストを 2 回実施予定）

担当教員からメッセージ

「初めての東洋医学は、わからない言葉が多く勉強することがたくさんあります。全ては患者さんを治すためにある学問です。あなたが治療家になるイメージを持ちながら授業を受講してもらえると学習効果も上がると思います。わからないことは放っておかず積極的に質問してください。」

専 門 分 野（ はりきゅう理論Ⅰ ）シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2025 年度シラバス

授業概要					
学 科	第 1 鍼灸科	学 年	1 年	学 期	前 期
単 位 数	1	必要時間数	20 時間	実施時間数	20 時間
担当教員	岩本 奈己				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	鍼灸施術において、利用する鍼と灸に関する道具の名称や術式など、基礎的な知識を理解することは、施術を円滑に進めるためには必要な知識である。そのため、本授業では鍼灸の基礎知識を学習する。 また、はり師きゅう師が患者の受療の可否の判断をすること、鍼灸施術を行うにあたって意図的に鍼灸刺激の調節ができる必要がある。本授業では、安全に施術を行えるように、鍼灸治療の適応や禁忌などのリスク管理について学習する。				
教 科 書	医道の日本社 第 3 版 はりきゅう理論				

具体的な到達目標	
目標 1	鍼の基礎知識として（各部の名称・長さ・太さ・鍼尖の形状）を説明することができる。
目標 2	古代九鍼の種類と使用方法について説明することができる。
目標 3	刺鍼の方式〔燃鍼法・打鍼法・管鍼法〕と刺鍼の術式〔押手・刺手・切皮など〕を説明することができる。
目標 4	刺鍼中の手技について説明することができる。
目標 5	特殊鍼法の種類と特徴について説明することができる。
目標 6	灸の基礎知識（灸の材料・線香について）を説明することができる。
目標 7	灸術の種類とその特徴を説明することができる。
目標 8	鍼灸施術の刺激量や感受性について説明することができる。
目標 9	鍼灸施術の適応症、禁忌について説明することができる。
目標 10	リスク管理（施術上の一般的注意、鍼灸療法の過誤と副作用、感染症対策）について説明することができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%		
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日	後日伝達		

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の実務経験	はり師・きゅう師の免許を有する。教員養成科附属治療院で 2 年の実務経験あり。本校附属治療所で 3 年間の実務経験あり。

実務経験
をいかした
教育内容

鍼灸施術を安全に行うために必要な基礎知識を教授する。

授業の内容

回数	日程	内容	備考
1		導入、鍼の基礎知識	
2		灸の基礎知識	
3		刺鍼の方式と術式①	
4		刺鍼の方式と術式②、灸術の種類①	
5		灸術の種類②	
6		特殊鍼法、感染対策①	
7		感染対策②	
8		鍼の禁忌・副作用	
9		灸の禁忌・副作用	
10		まとめ	

その他の事項

担当教員メールアドレス : n.iwamoto@butsugen.or.jp

授業概要					
学 科	第 1 鍼灸科	学 年	1 年	学 期	前 期
単 位 数	1	必要時間数	3 0	実施時間数	3 0
担当教員	上田 恵介				
授業形態	講 義	教 室	視聴覚教室		
授業目的	「医療」は人々が「病」を克服するために、様々な文化的背景のもと、多彩な発展を遂げてきた。現在、我々が病院で受ける近代西洋医学はその一つであり、我々が生業とするあん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師もまた一医療に過ぎない。時代、文化的背景ごとに異なる医療の歴史を学び、医療が持つ本来の役割、我々が生業とする資格の位置付け、生業の発展や技術の研鑽へのヒントとすることを目的とする。				
教 科 書	東洋療法学校協会編 医療概論 医歯薬出版株式会社、1991 年				

具体的な到達目標	
目標 1	医療や病について、時代、文化的背景を踏まえて述べることができる。
目標 2	古代のギリシヤ医学、インド医学および中国医学の類似性について述べることができる。
目標 3	中世以前と近代以降のヨーロッパにおける身体観、疾病観および医学の変化について述べることができる。
目標 4	中国医学と我が国の医学の関係性について述べることができる。
目標 5	古代から中世日本における医療と病の概念について述べることができる。
目標 6	律令制度下における医学教育、治療実践について述べることができる。
目標 7	中世から近世日本における主な医学者とその治療理論について述べることができる。
目標 8	近代以降の医療の歴史（特に医制の制定や敗戦後の扱れ方）について述べることができる。

評価と試験				
前 期			後 期	
試験成績				
平常点	1 0 %	算出方法	その他の事項に記載	算出方法
出席点	3 0 %	算出方法	その他の事項に記載	算出方法
その他	6 0 %	算出方法	その他の事項に記載	算出方法
試験日				

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	
実務経験をいかした教育内容	

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス、1. 医学史序説、1) 医療概論	
2		2. 医学史の意義と特質、1) 医学史の方法の可能性 3. 西洋の医学と医療の歴史、1) 古代の医学 1	
3		3. 西洋の医学と医療の歴史、1) 古代の医学 2	
4		2) 中世の医学、3) ルネサンスの医学	
5		4) 17世紀の医学ー近代医学の萌芽、5) 18世紀の医学	
6		6) 19世紀以降の医学	
7		4. 東洋の医学と医療の歴史、1) 古代インドの医学	
8		2) 中国の医学 1	
9		2) 中国の医学 2	
10		2) 中国の医学 3	
11		5. 日本の医学と医療の歴史、1) 古代以前	
12		2) 古代の医学	
13		3) 中世の医学	
14		4) 近世の医学	
15		総合学習	課外学習を予定

その他の事項

【成績評価について】

- ・ 平常点：10 点（総合学習）
- ・ 出席点：2/3 以上、出席した場合、最大 30 点とする。欠席日数に応じて減点をする（1 回 5 点）
- ・ その他：レポート提出（60 点）

医療の歴史の授業を通して興味を持った内容を 800 字以内のレポートで作成すること

記載内容：タイトル「医療の歴史レポート」・クラス・学籍番号・氏名 ※字数に含まない

① レポートテーマと選択した理由（例：西洋医学の歴史、東洋医学の歴史、人物など）

② 学習内容について ※テーマに対して授業内容を補足する場合、情報の追加は可

③ 学習内容を今後、どのように役立てるか

※末尾に文字数を記載すること

提出方法：①メール（ueda@butsugen.or.jp） ※添付データに限る（PDF・ワード）

②学校で提出 ※ワードや Pages など作成した文書を印刷して提出すること。

※どうしても難しい場合は、手書きで提出も可（レポート用紙に限る）

注意事項：生成 AI による作成文章は不可とする。自作の文章に限り提出を認める。

提出期限：別途アナウンスする

授業概要					
学 科	第 1 鍼灸科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	90	実施時間数	90
担当教員	下宮啓佑・棟居清峰				
授業形態	実 習	教 室	実技室		
授業目的	本授業は、基本的な刺鍼の手順、安全な鍼操作を理解、習得することが目的である。また、鍼灸臨床におけるステンレス鍼と銀鍼の使用方法を学び習得することで基礎を構築する				
教 科 書	教科書執筆小委員会、はりきゅう実技〈基礎編〉第 2 版、医道の日本社、1992 年				

具体的な到達目標	
目標 1	衛生操作（手指消毒・綿花の扱い・消毒）が正確にできること
目標 2	安全に刺鍼することができるように一連の手順を正確にできること
目標 3	刺鍼に関わる動作（揉捻法・押手・切皮・刺入・抜鍼）が適切に行えること
目標 4	指定された角度・深度に刺鍼することができること
目標 5	治療家として、清潔感のある身だしなみ（実習着・靴・頭髮・爪）を整えることが出来る

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	55%（試験合格を以って 55%を加算する）		55%（試験合格を以って 55%を加算する）		
平常点	35%	算出方法	「その他の事項」に記載	35%	算出方法 「その他の事項」に記載
出席点	10%	算出方法	「その他の事項」に記載	10%	算出方法 「その他の事項」に記載
その他		算出方法			算出方法
試験日					

＊再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☒	無 ☐	
教員の实務経験	〔下宮〕はり師・きゅう師の免許を有する。整形外科、鍼灸整骨院にて 4 年間の経験あり。他校附属治療院にて 6 年間の実務経験あり。本校附属治療所で 6 年間の実務経験あり。 〔棟居〕はり師・きゅう師の免許を有する。鍼灸院にて 9 年間の実務経験あり。教員養成科附属治療院にて 2 年間、往診専門で 2 年間、本校附属治療所で 1 5 年間の実務経験あり。		
実務経験をいかした教育内容	鍼灸臨床に必要とされる衛生操作と、安全に刺鍼するための基礎実技を行う。		

授業の内容		
回数	内容	備考
1	オリエンテーション〔シラバスの確認・実技室の使い方・道具の確認・道具の準備・手洗いについて〕	
2	両手挿管、片手挿管の方法、刺鍼練習台を用いて片手挿管の練習	
3	刺鍼の手順〔揉捻法・押手・刺手・切皮・弾入・抜鍼〕	
4	反復練習（刺鍼の手順〔揉捻法・押手・刺手・切皮・弾入・抜鍼〕）	

5	直刺での刺鍼、送り込み刺法、刺入深度について
6	反復練習（直刺での刺鍼、送り込み刺法、刺入深度について）
7	直刺での刺鍼、旋撚刺法
8	反復練習（直刺での刺鍼、旋撚刺法）
9	直刺での刺鍼、送り込み刺法・旋撚刺法
10	反復練習（直刺での刺鍼、送り込み刺法・旋撚刺法）、十七手技〔置鍼術、副刺激術、示指打法〕
11	人体への刺鍼手順、消毒手順、十七手技〔刺鍼転向法〕
12	自身の体への刺鍼〔下腿〕、反復練習〔前回授業内容〕、消毒手順確認、十七手技〔単刺・雀啄術・間歇術〕
13	自身の体への刺鍼〔下腿〕、反復練習〔前回授業内容〕、十七手技〔菅散術・屋漏術〕
14	自身の体への刺鍼〔下腿〕、斜刺での刺鍼、十七手技〔振せん術・旋撚術〕
15	自身の体への刺鍼〔下腿〕、直刺・斜刺での刺鍼、十七手技〔回旋術・随鍼術〕
16	片手挿管、刺鍼の手順、消毒手順の確認〕、十七手技〔内調術・細指術〕
17	自身の身体への刺鍼〔下腿〕、反復練習〔直刺・斜刺〕、十七手技〔鍼尖転移法〕
18	他者の体への刺鍼〔下腿〕、消毒手順確認、指サック・グローブの取り扱いについて、医療事故・医療過誤について①
19	他者の体への刺鍼〔上肢〕、タオルの取り扱い方、医療事故・医療過誤について②
20	他者の体への刺鍼〔下腿〕、医療事故・医療過誤について③
21	他者の体への刺鍼〔腰部〕
22	試験
23	試験
24	試験結果を踏まえての基礎実技
25	鍼寸3の取り扱いについて、他者の体への刺鍼〔腰部〕
26	他者の体への刺鍼〔上・中背部〕
27	他者の体への刺鍼〔上・中背部〕
28	他者の体への刺鍼〔上肢〕
29	他者の体への刺鍼〔上肢〕、
30	他者の体への刺鍼〔腹部〕
31	他者の体への刺鍼〔頸部〕
32	ステンレス鍼の取り扱いについて、他者の体への刺鍼〔頸部〕
33	他者の体への刺鍼〔背部〕
34	他者の体への刺鍼〔腰背部〕
35	他者の体への刺鍼、仰臥位と伏臥位の刺鍼
36	他者の体への刺鍼、仰臥位と伏臥位の刺鍼
37	他者の体への刺鍼、仰臥位と伏臥位の刺鍼
38	他者の体への刺鍼、仰臥位と伏臥位の刺鍼

39 鍼と灸を合わせての施術〔仰臥位・伏臥位〕

40 鍼と灸を合わせての施術

41 鍼と灸を合わせての施術

42 鍼と灸を合わせての施術

43 試験

44 試験

45 鍼と灸を合わせての施術〔仰臥位・伏臥位〕

その他の事項

【共通】

- ＜試験成績＞ 55%（試験合格を以って 55%を加算する）
- ＜出席点＞ 10%（3/4 以上の出席を以て 10%を加算する）
- ＜平常点＞ 35%

【平常点内訳】

- 〔授業内実技確認 20%〕 授業内に実技内容を確認・評価し 20%に換算する。（授業内実技確認日は別途アナウンスします。）
- 〔その他 15%〕 以下の内容、1 回チェックにつき 1 点減点とする。

- 実習着・上履き：清潔であること、規定のものを着用すること。忘れた場合、授業見学は認めるが、実技への参加は不可とする。
- 実技に必要な道具・備品（バスタオル、枕用タオル、シーツは持参のアナウンスがあつて以降）を忘れた場合。
- 身だしなみ：別紙（実技実習に関する身だしなみルール）に準ずる。
- 授業開始前までに連絡のない欠課、遅刻等。

- ・鍼の基礎実技は授業時間だけで習得することは非常に困難です。 積極的な日々の自主練習があつて、初めて習得できる技術ですから毎日、練習の習慣を付け、先ずは 1 年間毎日練習をしてください。
- ・実技試験には、授業担当者以外の教員が入る可能性があります。

【学校全体の目標】

課題に対して誤差なく、決められた刺法で刺入できること。

【1 年生の目標】

1 年生では誤差±5 mm以内で刺入できること。

※但し、目的の深度が 1cm の場合は下限を 7mm とする。

（直刺）90° を目標として刺鍼する。

1 年生は誤差±15° 以内で刺入できること

（斜刺）基本45°を目標として刺鍼する。

1 年生は 45° に対して誤差±15° 以内で刺入できること。

斜刺は流注に沿つての角度を計測することとする。

授業概要					
学 科	第 1 鍼灸科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	90 時間	実施時間数	90 時間
担当教員	高橋佑輔 岩本奈己				
授業形態	実 習	教 室	臨床実習室、第 1 実技室、第 3 実技室		
授業目的	臨床において、広く行われている灸法である知熱灸と透熱灸を、施術において用いることができるようにすることが本授業の目的である。知熱灸と透熱灸という灸法の手順を理解し、灸の基礎的な操作を学習する。				
教 科 書	教科書執筆小委員会、はりきゅう実技〈基礎編〉第 2 版、医道の日本社、1992 年				

具体的な到達目標	
目標 1	散艾から指定された大きさの艾炷を作成できる。
目標 2	安全な施灸の手順を正確に行える。
目標 3	作成した艾炷へ安全に着火できる。
目標 4	衛生操作（手指消毒・綿花の扱い・消毒）を正確にできる。
目標 5	治療家として、清潔感のある身だしなみ（実習着・靴・頭髮・爪）を整えられる。

評価と試験						
前 期				後 期		
試験成績	55%			55%		
平常点	35%	算出方法	「その他」に記載	35%	算出方法	「その他」に記載
出席点	10%	算出方法	「その他」に記載	10%	算出方法	「その他」に記載
その他		算出方法			算出方法	
試験日	後日伝達		後日伝達			

＊再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有	☒	無 ☐
教員の実務経験	〔高橋〕はり師・きゅう師の免許を有する。免許取得後、教員養成科時代に附属治療院にて 2 年間の実務経験あり。 本校附属治療所で 6 年間の実務経験あり。 〔岩本〕はり師・きゅう師の免許を有する。教員養成科附属治療院で 2 年の実務経験あり。本校附属治療所で 3 年間の実務経験あり。		
実務経験をいかした教育内容	鍼灸臨床に必要とされる衛生操作と、安全に施灸するための基礎実技を行う。		

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		オリエンテーション [シラバスの確認・実技室の使い方・モグサの確認・道具の確認・身だしなみ]	
2		お灸の概要、艾炷を捻る指の動きの練習	
3		米粒大艾炷の作成 [手拭い、ハンカチ]	

4	反復練習
5	米粒大艾炷の作成 [板]
6	線香の扱い方、艾炷への着火、米粒大艾炷の作成 [板]
7	反復練習
8	灸療リングの使い方、米粒大艾炷の作成 [紙]
9	米粒大艾炷の作成 [竹]
10	[板・紙・竹]を用いて施灸の反復練習
11	人体への施灸手順、知熱灸の方法 [板の上での練習]
12	自身の体への施灸① [失眠]
13	自身の体への施灸② [失眠・湧泉]
14	自身の体への施灸③ [下腿]
15	他者の体への施灸① [失眠・湧泉]、ベッド操作、タオルの扱い、声掛け
16	他者の体への施灸② [下腿]
17	半米粒大の艾炷作成 [板・紙]
18	透熱灸の方法 [板の上での練習]、自身の体への施灸① [失眠]、熱緩和
19	総復習
20	試験
21	前期まとめ
22	自身の体への施灸② [失眠・湧泉]
23	他者の体への施灸① [失眠]
24	他者の体への施灸② [失眠]
25	他者の体への施灸③ [失眠・湧泉]
26	施灸の確認①
27	他者の体への施灸
28	他者の体への施灸 [腰部] ①
29	他者の体への施灸 [腰部] ②
30	他者の体への施灸 [腹部] ①
31	他者の体への施灸 [腹部] ②
32	他者の体への施灸 [上肢] ①
33	他者の体への施灸 [上肢] ②
34	他者の体への施灸 [下肢]①
35	他者の体への施灸 [下肢]②
36	他者の体への施灸 [肩背部] ①
37	他者の体への施灸 [肩背部] ②
38	施灸の確認②

39		灸と鍼の施術〔腰部、腹部〕②
40		灸と鍼の施術〔上肢、下肢〕①
41		灸と鍼の施術〔上肢、下肢〕②
42		施灸の確認③
43		試験
44		試験
45		後期まとめ

その他の事項

【共通】

- ＜試験成績＞ 55%（試験合格を以って 55%を加算する）
- ＜出席点＞ 10%（授業コマ数の 3/4 以上を以て 10%に加算する）
- ＜平常点＞ 35%

【平常点内訳】

〔提出物 20%〕全提出の 3/4 以上提出を持って 20%に加算する。提出期限厳守。

〔その他 15%〕以下の内容、1 回チェックにつき 1 点減点とする。

- 実習着・上履き：清潔であること、規定のものを着用すること。忘れた場合、授業見学は認めるが、実技への参加は不可とする。
- 実技に必要な道具・備品（バスタオル、枕用タオル、シーツは持参のアナウンスがあって以降）を忘れた場合。
- 身だしなみ：別紙（実技実習に関する身だしなみルール）に準ずる。
- 授業開始前までに連絡のない欠課、遅刻等。

- ・灸の基礎実技は授業時間だけで習得することは非常に困難です。積極的な日々の自主練習があって、初めて習得できる技術なので毎日の練習の習慣を付け、まずは 1 年間毎日練習をしてください。
- ・実技試験には、授業担当者以外の教員が入る可能性があります。

【学校全体の目標】

人体に対し 3 分間で 12 壮、半米粒大の透熱灸（熱緩和を行う）ができること。

【1 年生の目標】

1 年生では 3 分間に米粒大 8 壮、半米粒大 10 壮

（例）失眠穴へ 3 分間（半米粒大）と透熱灸、熱緩和あり、左右交互 10 壮施灸できること。

1 年生は、紙への施灸は（200 壮／週）10,000 壮（通年）